

# 講演 1

## 東日本大震災被災地の現状

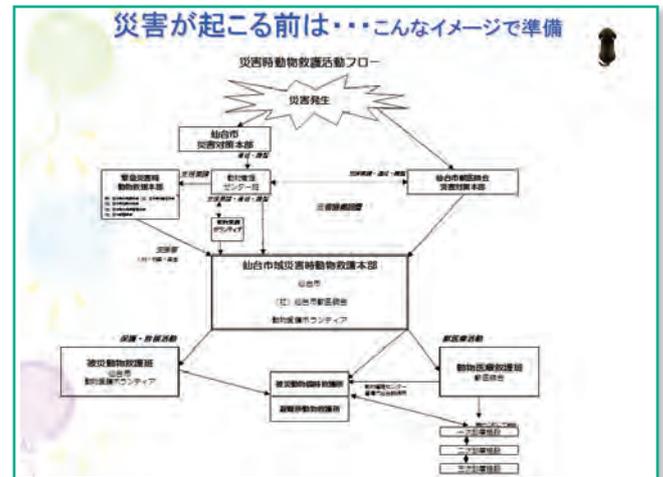
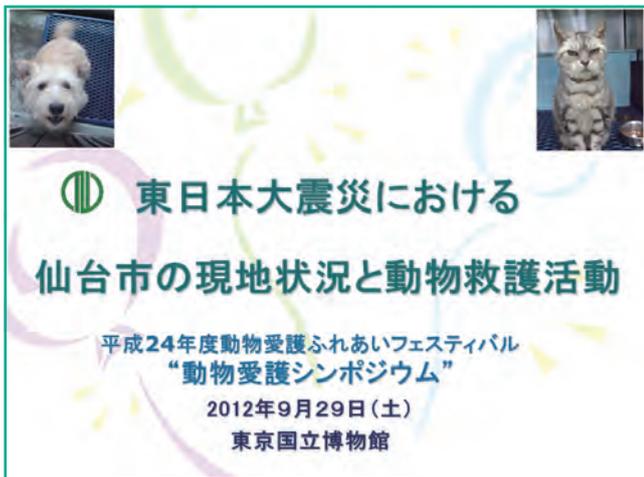
～災害が起きても一緒に暮らせるように～

亀田由香利 (仙台市動物管理センター 主幹)

1979年4月、仙台市役所に獣医師として採用される。同年5月、仙台市食肉衛生検査所勤務。1983年5月、仙台市経済局農政課勤務。1992年4月、仙台市八木山動物公園勤務。1995年4月、仙台市衛生研究所勤務。1999年4月、仙台市食肉衛生検査所勤務。2003年4月、仙台市八木山動物公園勤務。2005年4月、仙台市動物管理センター勤務。



司会: 続きまして、亀田由香利様のお話です。亀田様は、仙台市動物管理センターの主幹をしていらっしゃいます。仙台市役所に獣医師として採用されてから、食肉衛生検査所や経済局農政課勤務を経て、八木山動物公園などでも勤務されました。本日は、「東日本大震災における仙台市の現地状況と動物救護活動」というテーマでお話いただきます。それでは、亀田様、よろしくお願いいたします。



皆様こんにちは。只今ご紹介に預りました仙台市動物管理センターの亀田由香利と申します。私のようなものがこのような機会をいただきまして本当に感謝いたしております。また、全国の皆様方には震災直後より今でも本当にたくさんの温かいエールとご支援をいただきまして、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。3月11日あの日から1年半が経ちました。今でも、市内だけでも約1万世帯の仮設住宅で本当に不自由な生活を送られています。今回の震災の経験と教訓が1つでも多くの命を助ける糧になることを願いつつお話をしたいと思います。私に与えられたテーマは「東日本大震災における仙台市の現地状況と動物救護活動」という事ですが、東日本大震災が起こる前には行政としていったいどう準備をしていたのか。どう震災で何が起きたのか。行政としていったい何が出来たのか。今回の反省を踏まえたこれからの準備や心構えをお話させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

実は仙台市は30年以内に90%以上の確率で震度6以上の宮城県沖地震が起こるといわれておりました。そのため様々な準備をしてきました。その中で阪神淡路、中越地震の時の反省を踏まえ、市としてはペットを同行して避難することが前提ということで地域防災計画の中にも触れられておりましたので、こんなイメージで避難所設営が必要なレベルになった時には緊急災害時動物救護本部に支援要請しながら、獣医師会とボランティアと共に動物救護所を設置するという形はできていました。

